

教員紹介

NAME 氏名 職階
研究内容
【主な著書】(発行所 発行年)
【論文】(収録誌) 発行所 発行年

哲学歴史学 / 哲学歴史学専攻 哲学コース / 哲学専修

Takashi NAKAHARA 仲原 孝 教授
宗教学。宗教哲学。カント・ニーチェ・ハイデガーを中心とする近現代ドイツ哲学の研究。
『ハイデガーの根本本義』(昭和堂 2008)

Tomohiro TAKANASHI 高梨 友宏 教授
ドイツ近現代美学、近代日本の芸術論。
『西洋近現代美学の二視眼』(加南尚志・平尾昌弘 編著『哲学の眺望』見洋書房 2009)

Takashi TSUCHIYA 土屋 貴志 准教授
倫理学、医療倫理学、人権問題研究。
共著『医学研究』(丸善出版 2012)

Takeshi SAKON 佐金 武 講師
英語圏のいわゆる分析哲学の文脈において、現代時間論および関連する形而上学の問題を中心に研究。
『時間として十全なこの世界——現在主義の哲学とその可能性』(勁草書房 2015)

日本史コース / 日本史学専修

Takashi TSUKADA 塚田 孝 教授
日本近世史。特に近世身分制の研究、大阪の都市社会史や和泉をフィールドとした地域史。
『都市社会史の視点と構造』(清文堂出版 2015)
『大阪の身代、衣巻、四文字書、結びキリシタン』(ちくま新書 2013)

Hiroshi NIKI 仁本 宏 教授
日本中世史。都市史、地域社会史。現在はとりわけ、室町・豊臣期の、全国の港町、城下町に興味をもつて研究している。
『京都の都市共同体と権力』(思文閣出版 2010)
共著『長閑の城下町』(高志書院 2008)

Ashita SAGA 佐賀 朝 教授
日本近現代史。特に近代大阪の都市社会史・地域社会史。近年は近世の遊楽社会史も。
『近代大阪の都市社会構造』(日本経済評論社 2007)

Naofumi KISHIMOTO 岸本 直文 教授
日本考古学。古墳時代の研究。現在は、古墳時代から飛鳥時代への社会変容について、とくに 7 世紀中頃の文化革新とそれによる古墳の築造規制の実態がとらえられている。
編著『史跡で読む日本史 2 古墳の時代』(吉川弘文館 2010)

Toru IWASHITA 磐下 徹 准教授
都市制度の研究。古記録の註釈。大阪の古代史。
『畿内の遷都整備と行政』(思文閣出版 2015)
『市大日本史 18 pp.349-2015』

世界史コース / 東洋史学専修

Shigeki HIRATA 平田 茂樹 教授
中国の近世史。科挙・官僚制を中心とする政治構造の歴史。
『宋代政治構造研究』(汲古書院 2012)
『宋代政治構造研究』(上海古籍出版社 2010)

Chikayoshi NOMURA 野村 親義 准教授
近現代インド史。
『Selling steel in the 1920s: TISCO in a period of transition』(The Indian Economic and Social History Review, Delhi, vol.48-1, pp.83-116, 2011)

Masayuki UENO 上野 雅由樹 講師
『For the Fatherland and the State': Armenians Negotiate the Taninart Reforms』(International Journal of Middle East Studies, vol.45(1) pp.93-109, February, 2013)

世界史コース / 西洋史学専修

Syunji OGURO 大黒 俊二 教授
中世・ルネサンス期のイタリアおよび地中海世界社会史。経済史。
『声と文字』(岩波書店 2010)
『鐘と音欲——西欧中世の商業・商人観』(名古屋大学出版会 2006)

Masafumi KITAMURA 北村 昌史 教授
近現代ヨーロッパ、特にドイツの社会史。
『ドイツ統一と第二帝国』(小山内・上垣書・山田史郎・杉本淑彦編著『大学で学ぶ西洋史』近現代① ミネルヴァ書房 2011)

Hisatsugu KUSABU 草生 久嗣 准教授
ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、宗教問題史、異端学。
共著『高志書院の歴史空間——前近代ロシアと北道世界』(北海道大学出版会 2016)

人間行動学 / 人間行動学専攻 社会学コース / 社会学専修

Yuzo SHINDO 進藤 雄三 教授
理論社会学、医療社会学、家族社会学を専攻。現代の主要な研究テーマは現代社会学・医療学専門論文・死の社会学研究。
共著『社会学』(医学書院 2012)

Saeko ISHITA 石田 佐恵子 教授
メディア文化研究、映像社会学。
共編著『ビジュアル文化ミュージアム』(ミネルヴァ書房 2013)
共編著『ポストコロニアルのメディア社会学』(ミネルヴァ書房 2007)

Noriko UJCHI 伊地知 紀子 教授
朝鮮地域研究、文化人類学。
IICHI, Noriko, Atsumi KATO, and Ryoko SAKURADA eds, 2015, Rethinking Representations of Asian Women: Changes, Continuity, and Everyday Life, New York: Palgrave.
『わたしたちマッコリ。——朝鮮・家醸酒文化を今に受け継ぐ』(社会評論社 2015)
『日本人学者が見た濟州人の生——生活世界の語と実践』(済州大学校域文化研究所 2013 韓国語)

Eiji KAWANO 川野 英二 准教授
社会政策の社会学・比較社会学。
セルジュ・ボヤーム『貧困の基本的形態——社会的規範の社会学』(中経堂と共訳 新泉社 2016)
『大阪市民の貧困削減政策——貧困削減は対立しているのか?』(貧困研究 第 9 号, 貧困研究会 pp.18-29, 2012)

Hideaki SASAJIMA 笹島 秀晃 講師
都市社会学。
『From Red Light District to Art District: Creative City Projects in Yokohama』(Creative Cities in Yokohama) pp.33-2012

Tomoko KEGAMI 池上 知子 教授
社会心理学; 対人認知、偏見とステレオタイプ、社会的アイデンティティと社会システムの関係。
『格差と序列の心理学——平等主義のパラドクス——』(ミネルヴァ書房 2012)

Hiroshi YAMA 山 祐嗣 教授
認知心理学; 推論、思考の潜在性・顕在性、比較文化研究。
『思考・進化・文化——日本人の思考力』(ナカニシヤ出版 2003)

Kouichi KAWABE 川邊 光一 准教授
生理心理学; 高次認知機能 (特に学習・記憶) の脳内機構、精神疾患動物モデルに関する行動薬理学的研究。
『Effects of neonatal repeated MK-801 treatment on delayed nonmatching-to-position responses in rats』(NeuroReport, Vol.19, No.9 pp.969-973, 2008)

Daisuke SAEKI 佐伯 大輔 准教授
日本語の意味と文法。書体使っている言葉がどのような仕組みでできている、それが過去の現代までいかに変化してきたかという研究。
『日本文の語法』(和泉書院 2006)

教育学コース / 教育学専修

Atsushi KASHIWAGI 柏木 敦 教授
日本教育史、初等教育制度政策史。
『日本近代教育学成立史研究』(学文社 2012)

Haruo SOEDA 添田 晴雄 准教授
比較教育文化史、教育・学習における話すことと聞くことの研究、いじめ問題の国際比較。
共著『進歩主義教育の終焉——イングランドの教師はいかに授業つくりの自由を手放したか?』(知泉書院 2013)
共著『世界のいじめ』(金子書房 1998)

Hisayoshi MORI 森 久佳 准教授
教育学(教育方法論、カリキュラム論、教師論)。
共著『教職の仕事と求められる力量』(あいり出版 2011)

Nozomi SHIMADA 島田 希 准教授
教育方法学、授業研究。
『学校における美観研究の発展に関するモデルの構築——「美観的な学習共有性」の発展に関する知見を整理して——』(『日本教育学会論文誌』日本教育学会 39(3) pp.167-179, 2015)

地理学コース / 地理学専修

Shigeki OBA 大場 俊明 教授
都市政策とまちづくり、ドイツ地域研究。
『グローバル時代における EU 成長都市圏の地区更新——ハンブルグを事例として——』(『日本都市学会年報』vol.46 日本都市学会 2013)

Toshio MIZUUCHI 水内 俊雄 教授(兼)
都市の社会問題・住宅問題の歴史的背景や、脱ホームレス化の現状や都市再生に関わる政策・社会運動に関する地理学的研究、沖積研究。
編著『都市の発展・変容するまちの今を読み解く』(大阪公立大学共同出版会 2015)
共著『モダン都市の系譜』(ナカニシヤ出版 2008)

Takashi YAMAZAKI 山崎 孝史 教授
グローバルな政治経済的変動とローカルな政治・社会運動に関する地理学的研究、沖積研究。
『政治・空間・場所——政治地理学』にむけて [改訂版]』(ナカニシヤ出版 2013)

Ryoji SODA 相田 亮次 准教授
人文地理学、人口移動、資源利用・管理、災害発生、東南アジア地域研究。
People on the move: rural-urban interactions in Sarawak. (Kyoto University Press and Trans Pacific Press, 2007)

Yoshinari KIMURA 木村 義成 准教授
地理情報システム、保健医療分野における GIS の応用研究。
『Geodemographics profiling of influenza A and B virus infections in community neighborhoods in Japan』(Yoshinari Kimura, et al. BMC Infectious Diseases, 11:36, 2011)

Takanobu TANAKA 田中 孝信 教授
文学テキストと大衆メディアとの関係の研究。
Dickens in Japan: Bicentenary Essays (Osaka Kyokyo Toshio, 2013, coauthorship)

Ian RICHARDS イアン・リチャーズ 准教授
New Zealand literature。
『Do-It-Yourself History: A Commentary on Maurice Shadbolt's "Ben's Land"』(Lonely Maori Publishing, Auckland 2011)

Tetsuo KOGA 古賀 哲男 准教授
アメリカ文学 (黒人詩研究)。
『大衆詩における独創性(はなにか)——「豹と狸」における二つの編集意識——』(『黒人詩研究』82 pp.22-29, 2011)

言語文化学科 / 言語文化学専攻 国語国文学コース / 国語国文学専修

Tetsuya NIWA 丹羽 哲也 教授
日本語の意味と文法。書体使っている言葉がどのような仕組みでできている、それが過去の現代までいかに変化してきたかという研究。
『日本文の語法』(和泉書院 2006)

Naoki KOBAYASHI 小林 直樹 教授
中世の説話伝承文学。とりわけ現在は、連世帯の文学世界を中心に研究を進めている。
『中世説話とその基盤』(和泉書院 2004)

Hiroaki KUBORI 久埜 裕朗 准教授
近世文学、おもに人形浄瑠璃史の研究。
共編著『上方文化講座 義経千本桜』(和泉書院 2013)
共編著『上方文化講座 音泉伝授手習唄』(和泉書院 2009)

Kumiko OKUNO 奥野 久美子 准教授
芥川龍之介など大正時代の小説。特に大衆演芸からなる影響について。
『芥川作品の方法』(和泉書院 2009)

Mayuko YAMAMOTO 山本 真由子 講師
中古文、おもに漢文学、和歌の研究。
『『簡集』の「うたの序」——源朝における和歌序と詩序——』(『国語学』82 巻 6 号 2013)

中国語中国文学コース / 中国語中国文学専修

Tsuneko MATSUURA 松浦 恒雄 教授
19 世紀末以降の中国近現代文学、および演劇。
共著『帝国主義と文学』(研文出版 2010)

Mari IWAMOTO 岩本 真理 教授
近世から現代にわたる中国の語学、語法の変遷。唐語資料にみえる近世中国語の日本における定着と変遷。
共著『方言と中国文化』(国語館・岩波 2015)

Shinmin CHO 張 新民 教授
現代中国文学論及び映画研究。
共著『中国映画のなかで』(大修館書店 2010)

Koji OWAMOTO 大岩本 幸次 准教授
中国語音韻史、中国古代理学史。
『皇極経世解説』(音韻論) 校訳。
『劉子』(研文社 2011)
『金代音韻の研究』(東北大学出版会 2007)

Masashi SUGI 杉井 正史 教授
シェイクスピアの戯劇『十二夜』の研究。
『お気に召すまま』とキャンパ趣味。
『人文詩研究』第 62 巻 2011

Kazuhiko TANAKA 田中 一彦 教授
英語における特殊な過去完了形の用法について、will はアンスがモダリティである。
『過去完了形の使用を保障するオリエンテーション』(『言語情報学』vol.8, 2012)

Yukio IKARI 井村 幸男 教授
言語学基礎論、言語比較論。言葉の仕事みをさまざまな面から論じる。

Masato YAMAZAKI 山崎 雅人 教授
言語学基礎論、言語比較論。言葉の仕事みをさまざまな面から論じる。

Masako MIKAMI 三上 雅子 教授
現代演劇研究。
『恋する男と行動する女——宝塚歌劇における女性性——』(『表現文化』No.6 大阪公立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2011)

Junichi TOYOTA 豊田 純一 准教授
認知科学、歴史言語学、文化人類学。
Sense of Emptiness: an interdisciplinary perspective. (Newcastle upon Tyne, Cambridge Scholars Publishing, 2012)

ドイツ語フランス語圏言語文化コース / ドイツ語フランス語圏言語文化学専修 ドイツ語圏言語文化領域

Michio KAMITAKE 神竹 道士 教授
言語学、ドイツ語学、ドイツ語法理論。特に 16 世紀以降の標準ドイツ語形成過程の研究。
教科書『ドイツ語法ベーシック 3 改訂版』(朝日出版社 2016 年 1 月)

Kinuko TAKAI 高井 絹子 准教授
19 世紀末以降のドイツ語圏文学・文化。
『ナゲルブルク・ハッパムとウィーン——親懇的なドイツの書かえをめぐって——』(『人文研究』第 65 号 2014)

Kenichi HASEGAWA 長谷川 健一 講師
18・19 世紀のドイツ語圏の文化・文学。
共著『ドナウ河——流域の文学と文化——』(見洋書房 2011)

フランス語圏言語文化領域

Hirokyu TSUGAWA 津川 廣行 教授
20 世紀フランスの小説・思想の研究。複雑系論。
『象徴主義以降——ジイド、ヴァレリ、ブルースト——』(朝日新聞出版 2016)

Yoshiyuki FUKUSHIMA 福島 洋行 教授
ひととはどのように通じあうのかの研究。相互行為論、コミュニケーション論、外国語学習 (協働学習、ポートフォリオ)、言語学、都市とアート、コミュニティ開発、フランス語圏学。
『協働学習における「学習者」の構築——フランス語初級者の相互行為分析から——』(『人文研究』66 大阪公立大学大学院文学研究科 2015)

Yuki SHIRATA 白田 由樹 准教授
19 世紀末フランス・ベルギーの文化、ジェンダー表現の研究。
『ドラ・ペルナルール——メディアと虚構のミューズ——』(大阪公立大学共同出版会 2009)

言語応用コース / 言語応用学専修

Shigeki SEKI 関 茂樹 教授
統語論、語用論。英語などの言語に見られる形式と意味との対応関係の機能的観点からの研究。
『英語指定文の構造と意味』(開拓社 2011)

Yukio IKARI 井村 幸男 教授
母語獲得メカニズムの解明に向けた神経心理言語学。
『バイリンガル入門』(山本雅代 編著 井村幸男・田浦幸幸・難波和彦 大塚書房 2014)

Masato YAMAZAKI 山崎 雅人 教授
言語学基礎論、言語比較論。言葉の仕事みをさまざまな面から論じる。

Kazuhiko TANAKA 田中 一彦 教授
英語における特殊な過去完了形の用法について、will はアンスがモダリティである。
『過去完了形の使用を保障するオリエンテーション』(『言語情報学』vol.8, 2012)

Masako MIKAMI 三上 雅子 教授
現代演劇研究。
『恋する男と行動する女——宝塚歌劇における女性性——』(『表現文化』No.6 大阪公立大学大学院文学研究科表現文化学教室 2011)

Noriyuki NOZUE 野末 紀之 教授
19 世紀末イギリスの文学および文化思想。
『「ジェームズ・ヘンリー」の詩評言語』(『ペーパー・リネアス』の美学 論創社 2012)

Akihiro ODANAKA 小田中 章浩 教授
フランス演劇。比較演劇。分野横断的な表象(たとえば虚構)としての記憶喪失の研究。
『モダンドラマの冒険』(和泉書院 2014)
『フクシヤ中の記憶喪失』(世界思想社 2013)

Yoko TAKASHIMA 高島 葉子 准教授
比較文化学・比較文化。民間伝承(特に妖怪伝承)の比較文化的研究。

Takeshi EBINE 海老根 剛 准教授
表象文化論。
『『映画都市』としてマドリド——アルフレド・バルの初期作品における都市表象をめぐって——』(『表現文化』No.9, 2015)

アジア都市文化学専攻

Shin NAKAGAWA 中川 真 教授
アーツマネジメント、サウンドスケープ、東南アジアの音楽・舞踊。
『アートの力』(和泉書院 2013)
『これからのアートマネジメント——ソーシャル・シニアの道』(フィルムアート社 2011)

Mitsuhiko NOZAKI 野崎 彰彦 教授
韓国伝統文化論(思想・宗教・文学、映像文化)。
『韓国映画史』(朝日新聞出版 2016)
『洪吉童伝』(平凡社 東洋文庫 2010)
共著『韓国の古典小説』(ベリカン社 2008)

Hiroshi TAWADA 和田 裕司 教授
アジア諸地域の文化人類学。現代社会におけるアイヌ。
共編著『イスラエル社会における世俗化、世俗主義的宗教性』(上海外語教育出版社 2013)
『マール・イスラエルの人類学』(ナカニシヤ出版 2005)

Satoshi MASUDA 増田 聡 准教授
ポシュエ音楽研究。都市大衆文化研究、文化社会学(著作権、作者論など)。
『聴衆をつくって——音楽批評の解体式』(音響社 2006)
『その音楽の(作者)とは誰か——リミックス・産業・著作権』(みずすま書房 2005)

Madoka HORI 堀 まどか 准教授
国際日本研究。比較文化。境界者の文学から、文学の境界をさぐる。
共著『バイリンガルの日本語文学——多言語文化のあいだ』(三元社 2013)
主著『「三重国」詩人 野口末次郎』(名古屋大学出版会 2012)

Keita AMANO 天野 景太 准教授
観光学(都市観光論・観光メディア研究・ニューツーリズム論)。都市社会文化論。
共著『観光まちづくり』(再考)『古今書院 2016)
『東京の社会変動』(中央大学出版部 2015)

Masato YAMAZAKI 山崎 雅人 教授
言語学基礎論、言語比較論。言葉の仕事みをさまざまな面から論じる。

**○表現文化学専修
Kimi EMURA 江村 公 特任講師**
○ドイツ語フランス語圏言語文化学専修
Simon OERTLE シモン・オルト 特任講師
Laurent BARELLE ロラン・バレイユ 特任講師

**○都市文化研究センター
Yu ISHIKAWA 石川 優 特任助教**

——特任教員——



(2016年8月現在)